



## 地震防災訓練が実施される

名古屋大学地震防災訓練が、11月5日(水) 全学の教職員及び学生、消費生活協同組合等が参加して実施されました。

この訓練は、名古屋市が地震防災対策強化地域に指定されていることに伴い、実施されたもので、東海地域に大規模災害が発生することを想定して、就業時間内における地震防災体制確立の一環として情報伝達訓練を実施し、教職員及び学生等の防災意識の高揚を図ることを目的としています。

当日は、午前9時25分に東海地震判定会議が招集されたとの想定で行われ、松尾総長を長とする災害対策統括本部及び災害対策支部の設置、同本部から事務局及び各部署への情報伝達訓練等が実施されました。また、講義中の先生が、講義を一時中断し、学生に対して、東海地震の警戒宣言発令時及び突発的に大地震が発生した場合の対応について説明しました。さらに、研究室では、研究室内にいる学生に、これらの場合の対応とともに、研究室・実験室等における二次災害の防止措置等の説明がありました。

なお、同訓練後、全教職員に対して、伝達所要時間や問題点等についてのアンケートを実施し、自然災害対策室でこれらを整理の上、災害時に備えます。



災害対策統括本部



## 大学院生命農学研究科がシンボルマークを制定する



大学院生命農学研究科は、広く学内外に親しまれ、社会に対し同研究科のイメージをPRすることを目的として、このほどシンボルマークを制定しました。

山本同研究科長の提案により、部局構成員に公募したところ、7件の応募があり、投票の結果、後藤麻木同研究科助手が作成したシンボルマーク上図が選ばれました。

このシンボルマークは、同研究科のトレードマークであるメタセコイヤの木がだんだん大きく成長していく過程を描くことによって、同研究科の業績等が右肩上がり伸びることを期待したものです。カラーバージョンの色については、木の緑はそのものを、英語の頭文字の赤は太陽を表し、幹の下の青は水を表しています。すなわち地球上で生命が生きていく上で、かけがえのない太陽・光(赤)植物と大地(緑・茶)海河川・水(青)を表しています。

今後は、同研究科のシンボルマークとして、同研究科で刊行する印刷物をはじめ封筒等各種用途に幅広く使用していくことにしています。